

4 門
10 類
129 號

桃園天皇宸影

桃園天皇ハ、第百十五代ノ聖主ニマシマス、天皇英明ニシテ、和漢ノ典籍ヲ治メ、有志ノ公卿ヲ延キ、竹内式部流ノ學說ヲ聞召シ竊ニ皇權ノ恢復ヲ圖リ給ヘリ、在位十六年、寶曆十二年崩御アラセラル、寶算二十二、

第百十五代
桃園天皇
宸影
圖書

ハニ大正

北條實時畫像

北條實時ハ、義時ノ孫實泰ノ子ナリ、學ヲ好ミ書ヲ愛シ、文庫ヲ武藏金澤ノ別業ニ建テ、金澤文庫ト稱シ、廣ク和漢ノ典籍ヲ收貯セリ、ソノ子顯時孫貞顯三世相承ケテ益書ヲ貯ヘ、關東ノ文學ニ資スルトコロ多シ、建治二年十月二十三日卒ス、年五十三、大正四年正五位ヲ贈ラル、

コノ畫像ハ、金澤稱名寺ニ傳フルトコロニシテ、容姿ノ閑雅ニシテ、眉目ノ端麗ナルハ、以テ其文學ニ逍遙スルノ風ヲ想見スベシ、

淺井長政畫像

淺井長政ハ、久政ノ子ニシテ、備前守ト稱ス、父祖以來近江ノ北半ヲ領有セリ、朝倉氏ト連盟シテ、織田信長ニ抗シ、大ニ姊川ニ戰ヒテ敗レ、天正元年八月、信長ノ爲ニ滅サル、歲二十九、

コノ畫像ハ、ソノ十七回忌ノ時畫キタルモノニシテ、長政ノ女淀君ヨリ高野山持明院ニ寄附セルモノナリト云フ、原本ニハ前南禪寺住持鍊甫宗純ノ賛アリ、長政禪ヲ修メ和歌ヲ嗜ム、此ノ容、雄壯ノ中ニ溫雅ノ風ヲ存セルハ善ク其人ヲ躍出セリト云フベシ、

織田信忠畫像

織田信忠ハ、信長ノ嫡子ナリ、幼時ハ奇妙、マタ三法師ト稱ス、父ニ從ヒテ東討西伐、屢偉勳ヲ樹ツ、殊ニ松永ヲ誅シ、武田ヲ滅セルガ如キハ、其功多キニ居ル、天正十年六月、明智光秀ノ叛スルヤ、京都二條新御所ニ據リ、敵ヲ拒ギテ自殺ス、歳二十六、官ハ從三位左近衛中將ニ至ル、後右大臣ヲ贈ラル、

コノ畫像ハ、大雲院ノ所藏ニ係ル、大雲院ハ信忠父子ノ爲メニ建立セシモノナリ、ソノ容貌ノ端壯ニシテ眉目ノ秀麗ナルハ、頗ル信長ト相似タリ、

天海畫像

天海ハ、南光坊ト稱ス、天台宗中興ノ祖ナリ、宏才博學ニシテ辯論ニ長ズ、
徳川家康、秀忠、家光三代ノ尊信ヲ受ケ、大僧正ニ陞ル、日光山東照宮ヲ創
メ、川越喜多院等ヲ再興ス、又上野ニ寛永寺ヲ開キテ東叡山ト稱シ、皇子
ヲ招請シテ後嗣ニ擬シ、以テ比叡山ニ對セリ、寛永廿年寂シ日光山ニ葬ル、
享年百八歳、慶安元年勅シテ慈眼大師ノ號ヲ追諡セラル、コノ畫像ハ、狩野
探幽ノ筆ナリト傳フ、原本天海ノ自賛歌アリ、曰ク、「愚ナル心をこめぬう
つし繪のかりのすかたはさもあらはあれ」

池田光政畫像

池田光政ハ、輝政ノ孫ニシテ、利隆ノ子ナリ、新太郎ト稱ス、父ニ嗣ギテ播磨ヲ領シ、後鳥羽ニ移リ、再ビ岡山ニ轉封セラル、幼ヨリ學ヲ好ミ、殊ニ中江藤樹ヲ尊崇シテ、參觀交替ノ途次、ソノ講義ヲ聽クヲ常トセリ、其門人熊澤了介(蕃山)ヲ登用シテ國政ニ與ラシメ、後又津田左源太(永忠)ニ信任セリ、光政勵精治ヲ圖リ、學校ヲ設ケテ教化ヲ施シ勤儉貯蓄ヲ獎メ善行ヲ賞シ、新田ヲ開發シ國產ヲ増シ、社倉ノ法ヲ行ヒテ凶年ニ備フ、藩内教化ヨク行ハレテ治績大ニ舉ル、世ニ新太郎少將ト稱シテ、明君ノ譽高シ、寛文十二年致仕シ、天和二年岡山ニ卒ス、享年七十四、明治四十三年正三位ヲ贈ラル、コノ畫像ハ、延享四年孫繼政ノ畫ケルモノナリ、

山崎闇齋畫像

山崎闇齋、名ハ嘉、字ハ敬義、通稱ヲ加右衛門ト云フ、京都ノ人ナリ、朱子學ヲ修メテ別ニ一派ヲ起シ、又神道ヲ究メテ垂加流ヲ創メ常ニ國體ヲ重ジ、名分ヲ論ジテ尊王ノ思想ヲ鼓吹セリ、其名一世ヲ動カシ門人六千ニ及ベリト云フ、天和二年歿ス、年六十五、明治四十年正四位ヲ贈ラル、

コノ畫像ノ原本ハ、闇齋ノ孫弟子玉木葦齋ガ、其高足谷川士清ニ贈ルトコロナリ、士清自ラ闇齋ノ語ヲ書シテ「道則大日靈貴之道、而教則猿田彥神之教也」ト題セリ、巨眼魁軀人ヲシテ肅然畏敬セシム、以テ其人ト爲リヲ想見スベシ、

「ペリー」畫像

「マッシウ、カルブレイト、ペリー」 Matthew Calbraith Perry へ、夙ニ亞米利加合衆國ノ海軍ニ勤務シ、「メキシコ」戦争ニ際シテ、赫々ノ功アリ、其ノ東方政策ハ、大統領「フィルモア」ノ採用スル所トナリ、東印度支那日本海ニ在ル艦隊ノ司令長官ニ任ゼラレ、嘉永六年六月三日、浦賀港ニ來リ、九日、久里濱ニ上陸シ、國書ヲ將軍ニ奉呈ス、翌年正月、再ビ江戸灣ニ入り、二月十日、初メテ横濱村ニ上陸ス、林大學頭燿等之ニ應接シ、三月三日、日米和親條約ヲ締結ス、是レ我邦ガ歐米各國ト條約ヲ締結セル始ナリ、

コノ畫像ハ、明治四十二年六月、我練習艦隊ガ米國「シヤトル」ニ碇泊セシ時ニ「ペリー」ノ孫海軍少將「ロッジャース」、「ブレマートン」軍港ノ司令長官トシテ、我司令官ノ訪問ヲ喜ビ、記念ノ爲メニ贈リタルモノナリ、其ノ服裝ハ蓋シ^中佐ノ制服ニシテ、「ペリー」壯時ノ肖像ナラン、

室町時代風俗ノ圖

コノ圖ハ、山城嵯峨清涼寺釋尊畫像記ノ中ヨリ採リタルモノナリ、畫像記ハ此ノ釋尊ノ緣起ヲ畫キタルモノニテ、永正十二年、後柏原天皇ノ勅ニヨリ、青蓮院尊應法親王之ガ詞ヲ書カセラレ、狩野元信之ガ圖ヲ畫キタリトイフ、之ニ據レバ、コノ釋尊ハ僧奮然ガ宋國ヨリ將來シテ、清涼寺ノ本尊トナシ、モノニシテ、此ニ載スルトコロハ、釋尊ヲ清涼寺ニ迎ヘシ時ノ有様ヲ描キタルニテ、山門ノ前後ニ群集セル僧俗男女ハ、皆之ヲ迎拜セントスルナリ、板輿ニ乗レル貴婦人アリ、茶鐺ヲ荷ヘル老翁アリ、武士アリ、山伏アリ、ソノ事蹟ハ平安朝ノコトナレドモ、ソノ圖樣ハ室町時代ノモノナレバ以テ同時代ニ於ケル上下貴賤ノ風俗ヲ徵スベシ、

南蠻人渡來ノ圖

コノ圖ハ、凡ソ三百餘年前ノコロ、我が國ニ渡來セシ南蠻人ノ有様ヲ畫ケルモノニテ、原本ハ、六曲屏風ナリ、所謂南蠻人トハ、當時西班牙人葡萄牙人等ヲ指セル稱呼ニシテ、中ニハ、耶蘇教ノ宣教師アリ、又通商貿易ニ從ヘルモノアリ、多ク西歐ノ文物ヲ我國ニ傳ヘタリ、本圖ハ、此等各種ノ人物ヲ描出シ、併セテ本邦上下ノ風俗ヲ觀ルニ足ルベキ貴重ナル材料ナリ、